

## 人材育成学会第7回研究会

## 「組織事故と人材育成」

JR西日本の福知山線事故、みずほ証券の誤発注による巨大損失の発生、東京証券取引所のシステムダウンなど大手企業のトラブルが相次いでいます。ビジネス環境が急速に変化し市場競争が激化する中で、企業にとって必須課題である『安全と生産性の両立』がますます達成困難になりつつあります。多くの関係者の必死の努力にも関わらず、なぜ悲惨な事故や深刻なトラブルがなくなるのか。本研究会では、組織事故発生のメカニズムと防御のあり方、リスクマネジメントの実践活動、化学物質のリスクアセスメント等について、第一線の研究者、実務家から報告してもらいます。テーマが広範囲にわたるため、組織事故の予防並びに人材育成のために関係者が認識しておくべき本質的問題の抽出と共有化に議論の焦点を絞りたいと思います。

研究会企画担当 大泊 剛（株式会社人事工学研究所 代表取締役所長）

日 時：2006年3月19日（日）13:30～17:30

会 場：（学）産業能率大学 代官山キャンパス

プログラム：

13:30—13:35【問題提起】大泊 剛氏（株式会社人事工学研究所）

13:35—14:25【講演1】 組織事故発生のメカニズムと防御システム

高野 研一氏（財団法人電力中央研究所 ヒューマンファクター研究センター上席研究員）

※プロフィール：マンチェスター大学心理学部教授でヒューマンエラーに関する心理学分野の第一人者であるジェームズ・リーズンの著書『組織事故（邦訳名）』の翻訳者であり、氏自身同大学心理学部客員研究フェローを経験しており、リーズン教授と親交がある。現在、組織事故とその防御について幅広く研究並びにコンサルティング活動を行なっている）

14:30—15:20【講演2】安全の維持向上への取り組み・企業の現場から一碧南火力発電所のリスクマネジメントシステムの特徴と今後の展開

榎本 敬二氏（中部電力株式会社 碧南火力発電所 リスクマネジメントシステム事務局 発電課 技術管理グループ）

※プロフィール：最近の組織事故に注目すると、会社内、業界内だけの情報では的確なリスクマネジメントはできないという思いから、「安全研究会」の鉄道部会、航空部会のメンバーとして、運転士、車掌、駅員、運転司令員、パイロット、管制官、ディスパッチャー、自衛隊パイロット、医師、弁護士、研究者など多彩なメンバーと日々情報交換と意見交換を行なっている。

15:20—15:35 休憩

15:35—16:25【講演3】化学物質のリスクアセスメントの現状と課題・日米欧の比較を通して

花井 荘輔氏（富士写真フィルム(株)中央研究所、足柄研究所勤務を経て(社)日本化学工業協会に外向。同社定年退職後、同協会嘱託）

※プロフィール：化学工業界で化学物質のリスクアセスメントシステムの研究開発に携わってきた。英国保険安全研究所の職員でありリスクアセスメントの先駆者であるニック・ハースト博士の著書「リスクアセスメント（邦訳名）」の訳者であり、氏自身が『はじめの一步！化学物質のリスクアセスメント一図と事例で理解の幅を広げよう』などの著書を執筆している。欧米諸国に比べてわが国におけるリスクアセスメント対策の遅れを痛感している。

16:30—17:30【全体討論と質疑応答】